

令和6年度柏原市青少年講座 革細工講座 「世界に1つだけのオリジナルレザー ストラップを作ろう」

学科・専攻：リハビリテーション学科
作業療法学専攻

担当教員：楠田耕平 掛川泰朗

連携先

柏原市教育委員会事務局教育部
社会教育課

プログラム内容

本講座では、柏原市教育委員会の主催で、小学生(1年生～6年生)を対象に、革細工でコースターとレザーストラップづくりを行います。革細工は作業療法において治療的に用いられる活動の一つであり、開始前には革細工がどのようにリハビリと結びつくのかについて、簡単な講義も行いました。またOT専攻1年生からボランティアに参加してもらい、小学生へ「教える」という体験もしてもらいました。

成果・考察

柏原市の小学生14名とその保護者が本講義に参加してくださいました。革細工は小学生にとってとても楽しい体験だったようで夢中で取り組んでいました。また、リハビリの講義についても小学生・保護者ともに興味を持って聞いていただけたようで、「この講座に参加して、リハビリのこともたくさん知れて、コースターとストラップ作り、楽しかったです。」「革細工とリハビリが通じていることを初めて知りました。作業も楽しく、充実した時間でした。」と肯定的な意見を多くいただき、満足度の高い講義となりました。その要因の一つとして、学生がボランティアで積極的に関わってくれたことが考えられます。教員だけでは思いつかない丁寧な視点で準備に携わったり、やさしく小学生に声掛けをしてくれたりしたことで、小学生も安心して取り組めたのだと考えます。学生にとっても、小学生と関わる機会は少なく、何かを準備したり教えたりする機会も少ないため貴重な経験となったのではないのでしょうか。作業療法の学生は今後、学外の実習で臨機応変に行動することが求められますが、今回の革細工講座は有意義な経験になったのではないかと考えます。



関西福祉科学大学
リハビリテーション学科
作業療法学専攻
楠田 耕平 助教



普段小学生相手にお話をするのはあまりありませんので、最初はうまくできるか不安でしたが、皆さん本当に楽しそうに取り組まれて終わってみるととても楽しく、充実した時間となりました。そして、小学生の自由な発想・アイデアには驚かされ、たくさんの刺激をもらいました。大学生には、臨機応変に対応したり、人に教えたりという普段の授業では中々体験できないことをさせることができ、そちらも良かったのではないかと考えます。

関西福祉科学大学
リハビリテーション学科
作業療法学専攻 1年生

太田さん、渡邊さん
濱中さん、山本さん、小蔵さん



・発達分野に興味があり参加しました。コミュニケーション能力や子ども達が活動しやすいよう動く先読み力などが得ることが出来ました。
・小学生の作品は、ハートや星の刻印をあえて使わずに、他の刻印で形を作っていたり、イニシャルをどのような刻印で作るかも考えているすごいなと思いました。
・うまく小学生の子たち接することができるのかは心配だったのですが、子どもたちの方から色々話してくれて、心配はなくなりました。・最初は子ども達にどう声をかけたらいいか分からなかったが、話しかけてみたら子ども達も話しかけてくれ、仲良くなれたので良かったです。とてもいい経験になりました。